

2023（令和5）年度 東北アジア研究センター共同研究報告書

提出 2024（令和6）年4月20日

代表者 荒武 賢一郎

（本報告書はセンター内外への公開を原則とします）

研究題目	和文) 仙台藩における支配機構と政策決定の総合的研究 英文) A Comprehensive Study of the Ruling Structure and Policy Making in the Sendai Domain			
研究期間	2022（令和4）年度 ～ 2023（令和5）年度（2年間）			
研究領域	(D) 自然・文化遺産の保全と継承			
研究組織	氏名	所属・職名	専門分野	役割
	荒武 賢一郎	東北アジア研究センター・教授	歴史学、日本経済史	研究代表者
	野本 禎司	開智国際大学教育学部・准教授	歴史学、日本政治史	研究分担者
	松本 剣志郎	法政大学文学部・准教授	歴史学、日本都市史	研究分担者
	萱場 真仁	公益財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所・研究員	歴史学、日本林政史	研究分担者
	吉川 紗里矢	国税庁税務大学校租税資料室・研究調査員	アーカイブズ学、文書管理史	研究分担者
	大銃地 駿佑	中央大学大学院文学研究科・博士後期課程	歴史学、日本災害史	研究分担者
研究経費	学内資金	センター長裁量経費 [金額] 299,921 円		
	外部資金(科 研・民間等)			[小計]
	合計金額	299,921 円		
研究の目的と本年度の成果の概要 (600-800 字の間で 専門家以外にも理解 できるようまとめて ください。)	<p>東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門（以下、上廣部門）が展開する歴史資料保全活動では、県内各所に所在する仙台藩家臣（武士）の歴史資料の調査を積極的に進めている。その成果は、資料翻刻を収録した報告書の刊行や資料画像のウェブ公開などにより、その活用についても促進を図ってきた。本共同研究では、こうして新たに活用可能となった資料をはじめ、博物館・図書館などに保管されるものを突き合わせることで、これまで実証的研究が皆無に近いと指摘されてきた仙台藩の官僚的組織を明らかにすることを目標とした。近世日本では官僚的組織を武士が構成していたため、上述の資料分析を進めることは研究の深化を促し、東北地方にあって最大の大名家として江戸幕府に大きな影響を与え続けた仙台藩を追究することは、日本史研究全体の進展においても重要な意味を有している。</p> <p>本年度は、①上廣部門の調査成果を考察および共有、②宮城県図書館所蔵資料の調査、③研究報告会・プロジェクト会議を1回開催（2023年8月、於法政大学）、④パネル展示「侍たちの江戸時代—仙台藩の組織と政策—」の開催、⑤同展示パンフレット（別冊史の杜第10号）の刊行、⑥東北アジア研究センター主催第5回みちのく歴史講座の開催、⑦東北アジア研究センター叢書第75号の刊行、といった活動を展開することができた。また、これらをもとに次年度刊行予定の成果論文集執筆を進行させている。</p>			

	研究成果としてはさまざまな史実を明らかにしたうち、これまでの先行研究では注目されてこなかった仙台藩における支配機構の役職について具体的な職務実態が明らかになったこと、また百姓一揆や藩政改革を経て、官僚的組織が果たした役割と、地域支配機構の変化を改めて再考できたことが挙げられよう。これらの成果から、近世日本の大名家に関する新たな事実を提供し、当時の武士について具体像を提示した。		
本年度の活動における東北アジア地域研究としての意義についてアピール	本研究が具体的に検討した17世紀から19世紀半ば（近世）における日本の行政機構は、武士が官僚的組織の主体となっていた。たとえば、同時期の中国やモンゴル、朝鮮半島では、どのような支配体制の構築や民間社会との接点を形成したのか。各地の専門家による成果を参照しながら、近世東北アジア比較地域史への貢献もできる段階に到達したといえる。		
研究集会・企画	研究会・国内会議・講演会など：4回	国際会議：0回	
	研究組織外参加者（都合）：125人	研究組織外参加者（都合）：0人	
研究成果	学会発表（0）本	論文数（1）本	図書（1）冊
専門分野での意義	[専門分野名] 歴史学、日本史	[内容] 歴史資料の新たな発見・分析から行政機構のあり方を解明	
学際性の有無	[有]	参加した専門分野数：[3] 分野名称[歴史学、アーカイブズ学、考古学]	
文理連携性の有無	[無]	特筆事項：	
社会還元性の有無	[有]	[内容] パネル展示や公開講座によって広く社会と成果を共有し、未公開資料の刊行とウェブ公開するなど速報性の高い還元を実施した。	
国際連携	連携機関数：0	連携機関名：	
国内連携	連携機関数：3	連携機関名：開智国際大学、法政大学、徳川林政史研究所・税務大学校	
学内連携	連携機関数：1	連携機関名：東北大学埋蔵文化財調査室	
教育上の効果	参加学生・ポスドクの数：1	参加学生・ポスドクの所属：中央大学大学院文学研究科博士後期課程	
第三者による評価・受賞・報道など	なし		
研究会計画全体のなかでの当該年度成果の位置づけと今後の課題	<p>昨年度は組織内の共通基盤整備や資料調査を中心に作業を進めていたが、今年度はその収集資料をもとに具体的分析に着手し、2023年8月には個々の考察結果と、今後の成果集約について議論を進めることができた。参考までに当日の論題は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒武「一門衆の組織と運営」 ・野本「宿老の政治的位置」 ・松本「江戸留守居の成立と職掌」 ・萱場「林政の展開と御山守」 ・吉川「一家における昇進と文書管理」 ・大銚地「寛政転法後における地方支配機構」 <p>この研究報告をもとに、展示パネルや次年度刊行予定の成果論文集に関する原稿執筆をおこなってきた。この共同研究によって、歴史学およびアーカイブズ学研究の相互補完を積極的に展開し、ほかの隣接諸科学とも引き続き対話を重ねつつ、近世政治構造の研究到達点を高めていく予定である。</p>		
最終年度	該当 [有]		

本共同研究に関わる業績（発表予定含む）

[雑誌論文]

- ・荒武賢一朗「幕末期における商人の「領主御用」と「献金」—白石・渡辺家文書の考察から—」（『宮城歴史科学研究』第91号、2023年9月）

[その他]

(出版)

- ・東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門編集・発行『別冊史の杜 8号 地域の歴史を知る 片倉氏と江戸時代の白石城』2023年10月
- ・東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門編集・発行『別冊史の杜 10号 地域の歴史を知る 侍たちの江戸時代—仙台藩の組織と政策—』2023年11月
- ・荒武賢一朗、白石古文書の会編『白石片倉家中・佐藤家文書—宮城県蔵王町・近世在郷武士の記録を読む—』東北アジア研究センター叢書第75号、2024年1月
- ・荒武賢一朗、野本禎司編『仙台藩の組織と政策（仮）』東北アジア研究専書、岩田書院、2024年度刊行予定

(展示)

- ・白石城パネル企画展（東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門、白石市教育委員会主催）「片倉氏と江戸時代の白石城」、白石城・白石城歴史探訪ミュージアム、2023年10月6日～12月20日
- ・東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門パネル展示「侍たちの江戸時代—仙台藩の組織と政策—」、仙台市営地下鉄東西線国際センター駅1階、2023年11月2日～29日

(講演)

- ・荒武賢一朗「一門衆の組織と運営—岩出山伊達家の事例から—」第5回みちのく歴史講座「侍たちの江戸時代—仙台藩の古文書分析—」、東北大学川内北キャンパス、2023年11月11日
- ・野本禎司「仙台藩宿老の政治的役割—後藤家文書の調査から—」第5回みちのく歴史講座「侍たちの江戸時代—仙台藩の古文書分析—」、東北大学川内北キャンパス、2023年11月11日

(公開講座主催・企画)

- ・J.F.モリス「「菜切谷村他三箇村絵図」の謎を読み解く—仙台藩4代大名綱村の時代への覗き穴—」講座：地域の歴史を学ぶ◎加美、加美町中新田公民館、2023年12月10日

その他、関連する情報は上廣歴史資料学研究部門ホームページに掲載

<https://uehiro-tohoku.net/>